

自己評価シート【東根住区センター児童館】

1、福祉サービスの基本方針と組織

1-1 理念・基本方針

1-1-1 (1) 理念、基本方針が明文化（児童館内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等））され周知が図られている。	
【判断基準】 (a) 児童館の理念、基本方針が適切に明文化されており、職員、利用者等への周知が図られている。 (b) 児童館の理念、基本方針が明文化されているが、内容や周知が十分ではない。 (c) 児童館の理念、基本方針の明文化や職員、利用者等への周知がされていない。	
【自己評価】	実践例（取組や記録等）
<input type="checkbox"/> a)、 <input checked="" type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	児童館の理念、基本方針は事業計画に明文化し、職員間での共有を図っている。また、イベントの企画や利用者との関わりの際の考え方の軸としているため、その都度、ねらいや理念を利用者へ発信している。
1-1-2 (2) 理念、基本方針の確立・周知について	
良いと思う点	改善が必要だと思う点
開設前の研修や現場視察をさせていただくことで、目黒区の理念や実践を学ぶことができた。施設内では理念や基本方針に則り、児童館の運営や行事の立案を行っているため、日常的に理念や基本方針を考え、振り返ることができている。	利用者、地域の方々が理解しやすいよう、館内掲示やおたよりを用いた明文化した発信が必要である。

2、児童館の活動に関する事項

2-1 児童館の理念・目的及び施設特性

2-1-1 (1) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいる。	
【判断基準】 (a) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいる。 (b) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいるが、十分ではない。 (c) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいない。	

【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針の内容を、利用者との関わりや行事等、児童館運営全体に活かしている。
2-1-(2)	
児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の施設特性を發揮している。	
【判断基準】	
(a) 児童館の施設特性を發揮している。	
(b) 児童館の施設特性を發揮しているが、十分ではない。	
(c) 児童館の施設特性を發揮していない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	全ての利用者が気軽に施設を利用できるよう、利用者とのコミュニケーションを図り、関係性の構築に努めている。特に初めて来館される子どもや保護者の方には職員が丁寧に説明を行い、安心して利用ができるよう配慮している。 併設している住区センターとは会議やイベントを通じて交流を図り、運営2年目となる次年度に向けた良好な関係性を築くことができている。当年度は主任児童委員や民生児童委員の方をボランティアとしてお招きし、子どもたちとの交流の機会をつくった。
2-1-(3)	
子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	
【判断基準】	
(a) 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	
(b) -	
(c) 子どもの権利擁護に関する取組が十分ではない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	日頃から、子ども一人ひとりの話を傾聴し、気持ちや考えを承認することを意識し、対応を行っている。子ども同士のトラブルが起きた際には、必要に応じて子どもの気持ちを代弁する等も行い、一人ひとりの人格や考え方の違いを理解できるよう話をしている。 毎月の子ども会議で意見の発信の場を設けており、施設運営やイベント企画に反映している。
2-1-(4)	
児童館の理念・目的及び施設特性について	
良いと思う点	改善が必要だと思う点
児童館運営指針にある「子どもにとっての心地よい居場所づくり」という考えを全職員が目標として定め、主体的に運営に取り組んでいる。	地域の子育て支援活動の拠点として、児童館開設の発信だけではなく、活動や理念の発信を積極的に行い、認知度の向上と連携を強めていく。

2-2 遊びによる子どもの育成

2-2-(1)	
子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っている。	
【判断基準】	
(a) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っている。	
(b) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っているが、十分ではない。	
(c) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解していない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	子どもとの日々の関わりの中で感じた気づきは、職員会議にて共有し、一人ひとりの成長や発達に適した丁寧な対応を模索し、実践している。会議に参加していない職員等には、職員ノートを用いて共有し、可能な限り情報や子どもの対応に差異が生じないように努めている。
2-2-(2)	
子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしている。	
【判断基準】	
(a) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしている。	
(b) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしているが、十分ではない。	
(c) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしていない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	プレイルームでは「そうだんタイム」を必ず設定し、子ども同士で話し合い内容を決定する時間を設けている。クラフトルームでは木工の充実化に課題はあるものの、子ども創造力を実現化できるようサポートに努め、材料や加工方法等のアドバイスをを行っている。
2-2-(3)	
子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助している。	
【判断基準】	
(a) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助している。	
(b) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助しているが、十分ではない。	
(c) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるような援助を行っていない。	

【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）	
☑a)、□b)、□c)	ベビールームと乳幼児ルームを除く、全ての部屋に対象年齢を設定しないことで小学生以上の子どもと乳幼児親子が遊びを通じて交流する機会が設けられている。特に、プレイルームで行う「ポッチャ」や「そうだんタイム」では年齢や学年の垣根を越えた交流や子どもが自発的に活動を進めることができているため、今後も継続して援助を行い、更なる子ども主体の運営を目指していく。	
2-2-(4) 遊びによる子どもの育成について		
良いと思う点	改善が必要だと思う点	
親しい仲であったとしても、相手への言葉遣いや思いやりの心を育んでいくことを念頭に入れながら子どもとの遊びを行っている。目に見える明確な変化はないものの、日々子どもたちの成長を実感することができる。	より幅広い子どものニーズに応えるべく遊びの幅の拡大と、OJT を用いた職員のスキルアップが必要であると感じる。	

2-3 児童館の安全管理

2-3-(1) 緊急時（事故、感染症の発生時など）の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。		
【判断基準】 (a) 利用者の安全確保のために、体制が整備され機能している。 (b) 利用者の安全確保のために、体制が整備されているが、十分に機能していない。 (c) 利用者の安全確保のために、体制が整備されていない。		
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）	
☑a)、□b)、□c)	「災害時初期対応マニュアル」に基づき、地震・火災・水害それぞれを想定した避難訓練を月1度実施し、有事の際に適切な対応ができるよう備えている。事務室には「事故・怪我・災害時フローチャート」を掲示し、全職員への共有と有事の際にスムーズな対応ができるよう努めている。	
2-3-(2) 利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。		
【判断基準】 (a) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集し、要員分析と対応策の検討を行い実行している。 (b) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集しているが、要員分析と対応策の検討が十分でない。 (c) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集していない。		

【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	チェックシートに基づき、開館前に施設点検を実施。運営の中で発生した事故やヒヤリハット案件については、毎日の職員会議時に共有し、要員分析と対応策の検討を行っている。